

評価対象	具体的な評価項目	アンケート結果						考 察 ()内の数値は昨年度の結果(%)	次年度に向けて
		教員	1年	2年	3年	全体	保護者		
学力の向上	1 生徒の学力向上に向け、意欲的かつ計画的にきめ細かな指導を行っているか。 生徒:学習全般に対して達成感・満足感を持っているか。 保護者:全般についての取り組みをどのように感じているか。	A a a	B b c	A c c	B b c	B b c	A a a	教:「十分」「そうしている」が97.6%(97.5)。 生:「大いに」「持っている」が59.8%(53.6)。 保:「取り組んでいる」が87.8%(86.1)。 「達成感」等を持ってた生徒が6ポイント増	・授業公開週間等を利用し、さらなる授業改善に取り組み、分かりやすい授業を学校全体で実践していく。 ・補助教材やプリントの工夫により、生徒が意欲的に取り組めるよう各教科で組織的に検討していく。
	2 生徒の興味・関心・意欲を喚起しながら、学力の定着に向け、様々な工夫をした授業を心がけているか。 生徒・保護者:全体として、授業内容に満足しているか。	A a a	A a a	A a a	A a b	A a a	A a b	教:「十分」「そうしている」が100%(92.5)。 生:「満足している」が79.1%(76.8)。 保:「信頼できる」が81.5%(79.0)。 授業に対して概ね良好な評価	・授業の質の向上を目指し、教材研究の充実や外部研修にも積極的に参加していく。 ・学力の定着に向けて適切な課題の配布や計画的な補習を実施していく。
	3 生徒の家庭学習時間が増え、定着するよう工夫した指導を実践しているか。 生徒・保護者:計画的な家庭学習ができていますか。	A a a	C c c	C d d	A b b	B c c	C c c	教:「十分」「そうしている」が87.8%(92.5)。 生:「出来ている」が51.1%(35.3)。 保:「出来ている」が47.9%(45.9)。 3年では75%が「出来ている」と回答	・家庭学習時間を確保するために予習・授業・復習・テストの学習習慣を学年・教科で徹底して指導していく。 ・生徒面談を多くし、家庭学習や進路目標を的確に把握し生徒の学習意欲が向上するよう指導していく。
	4 生徒の実態や課題に応じて、学力を向上させるために、積極的に取り組んでいるか。 生徒・保護者:生徒の実態に応じて学力を向上させる取り組みに満足しているか。	A a b	A a b	A a a	A a a	A a a	A a a	教:「十分」「そうしている」が95.1%(82.1)。 生:「満足している」が92.5%(83.0)。 保:「取り組んでいる」が80.5%(72.4)。 学力向上の取り組みを評価する率が伸長	・数学・英語における習熟度別少人数授業のさらなる効果的な実施を教科で検討することで上位層の伸長と中間層の増加を目指していく。 ・1年次の選抜クラスを多角的に検証し、今後も効果的な取り組みを学年、教科が連携して実践していく。
	5 長期休業中の課外の成果が上がるよう、様々な工夫をして取り組んでいるか。 生徒:全体的に満足しているか。 保護者:効果があるか。	A a a	A a b	A b b	A a c	A a b	A a a	教:「十分」「そうしている」が80.5%(87.2)。 生:「満足している」が87.0%(79.9)。 保:「効果がある」が87.5%(87.8)。 特に3年で評価が向上	・夏期前期・後期課外、冬期課外等をより効果が上がるように教材等を研究し継続していく。 ・平常課外、土曜補習、長期休業中の課外、学習合宿等を学力向上につながるよう組織的に継続していく。
進路指導の充実	6 生徒の適性や希望などを十分に把握しながら、適切な進路指導を実践しているか。 生徒・保護者:主体的な進路選択をする上で、本校の進路に関する援助に満足しているか。	A b a	A a a	B a a	A a a	A a a	B b b	教:「十分」「そうしている」が95.2%(78.1)。 生:「満足している」が94.4%(87.2)。 保:「満足している」が61.7%(59.2)。 学年により差が見られる結果	・保護者向けの進路情報を的確に発信するとともに気軽に相談できる体制をつくる。 ・職業進路講演会、大学出張講義等のキャリア教育を推進していく。
教科外教育活動の活発化	7 部活動を通じた人づくりにむけ、積極的な指導を実践しているか。 生徒:部・同好会活動について、積極的に参加しているか。 保護者:部活動・同好会に対する学校の取り組みをどう思うか。	A a b	A a a	A a a	B a a	B a a	A a a	教:「十分」「そうしている」が88.1%(100)。 生:「参加している」が68.5%(78.0)。 保:「活発である」が77.7%(77.4)。 全体的にやや減少	・学業と部活動が両立できる指導計画の作成、悩み等の相談を充実させ、部活動の継続を推進していく。 ・異年齢集団における活動をとおして、豊かな人間性を育てていく。
	8 生徒が学校行事や生徒会行事には積極的に参加し、充実感を友人とともに共有できるよう積極的に指導しているか。 生徒:満足しているか。 保護者:子息の満足度はどうか。	A a a	A a a	A a a	A a a	A a a	A a a	教:「十分」「そうしている」が97.6%(95.2)。 生:「満足している」が89.8%(86.5)。 保:「満足」が94.1%(91.0)。 全般的に高い満足度	・学校行事や生徒会行事がより一層生徒が主体的に計画、運営、実施ができるように組織的に援助する。 ・全ての行事において、ホームページ等を積極的に活用し保護者はもとより、地域にも本校の様子を発信していく。
総括的評価	9 生徒が充実した学校生活を送れるよう、適切な指導・援助を実践しているか。 生徒:現在の足高での学校生活に満足しているか。 保護者:本校に入学させて良かったと思っているか。	A a a	A a a	A a a	A a a	A a a	A a a	教:「十分」「そうしている」が100%(80.3)。 生:「満足している」が88.6%(84.5)。 保:「良かった」が96.4%(95.4)。 全般的に高い満足度	・すべての生徒の学力向上のために授業改善、課外、補習、SSH等を組織的、計画的に継続していく。 ・計画的、自主的に学習できる生徒を育成し、さらなる学力向上、進学実績を目指し、生徒・保護者・地域に伝えていく。

評価基準	生徒・保護者 アンケートの①②合計の回答率	教員 アンケートの①②合計の回答率
	70%以上 A (十分に成果があった)	80%以上 A (十分努力している)
	50%以上70%未満 B (成果があった)	60%以上80%未満 B (努力している)
	30%以上50%未満 C (少し成果があった)	40%以上60%未満 C (あまり努力していない)
	30%未満 D (成果がなかった)	40%未満 D (努力していない)

* アンケート結果のアルファベットは次の通り。
 上段:平成25年度(大文字)
 中段:平成24年度(小文字)
 下段:平成23年度(小文字)